

未来遺産・見沼たんぼプロジェクト

見沼たんぼの中心的地域への 高速道路(核都市広域幹線道路) 導入計画に反対



都心から20～30km圏の大規模田園緑地
川口市(人口60万人)の北部から、
さいたま市(人口135万人)の中央部を北端から南端へ長さ10km
沼跡の低地は1260ha「市街化調整区域」
台地地区の「市街化調整区域」=『ふるさとエリア』を含めて約2000ha



首都圏の大規模田園緑地

- * 3,000万人が住む首都圏 20～30kmの「緑の大地」
- * さいたま市・川口市を合わせた200万都市の大規模田園緑地
- * 「農地としての利用」が基本の「平地型の田園緑地空間」



都市に隣接する田園地域



未来の子ども達に多様な魅力と夢を 伝え遺すための活動 2014年

毎 日 新 聞

2014年(平成26年)12月21日(日) 埼玉中央

埼玉 24

保全活動が「未来遺産」

見沼田んぼ

さいたま市と川口市の一部にまたがる「見沼田んぼ」を保全し継承する「未来遺産・見沼たんぼプロジェクト」推進委員会の取り組みが、日本ユネスコ協会連盟の100年後の子供たちに伝えるべき「未来遺産」に登録された。子どもたちに農業体験をさせたり、稲作文化を守る活動をしている20の団体・機関による連携が評価されたため、同委員会の新井一裕代表は「田んぼに関わる団体はそれぞれ多様な活動をしている。今回の登録を弾みに、より一層ネットワークを広げたい」と喜びを語る。

農業体験や稲作文化を守る

見沼田んぼは東京から20～30キロ圏に位置し、南北約14キロにわたって田園風景が広がる。面積は約1,600ヘクタールで、江戸時代に干拓されて農地となった。1965年に県が治水対策として、野水灌漑が多い田んぼを原則、宅地化しない方針を決定。その後は経営成長が著しく、開発と保全の間で揺れ動いたが、5000年に改めて治水機能を保持し、緑地を守る基本方針が策定された。同委員会の研究などをつくる

日本ユネスコが登録



農業の指導を受け、田んぼを「フナエ川」に注ぐ。未来遺産・見沼たんぼプロジェクト推進委員会提供

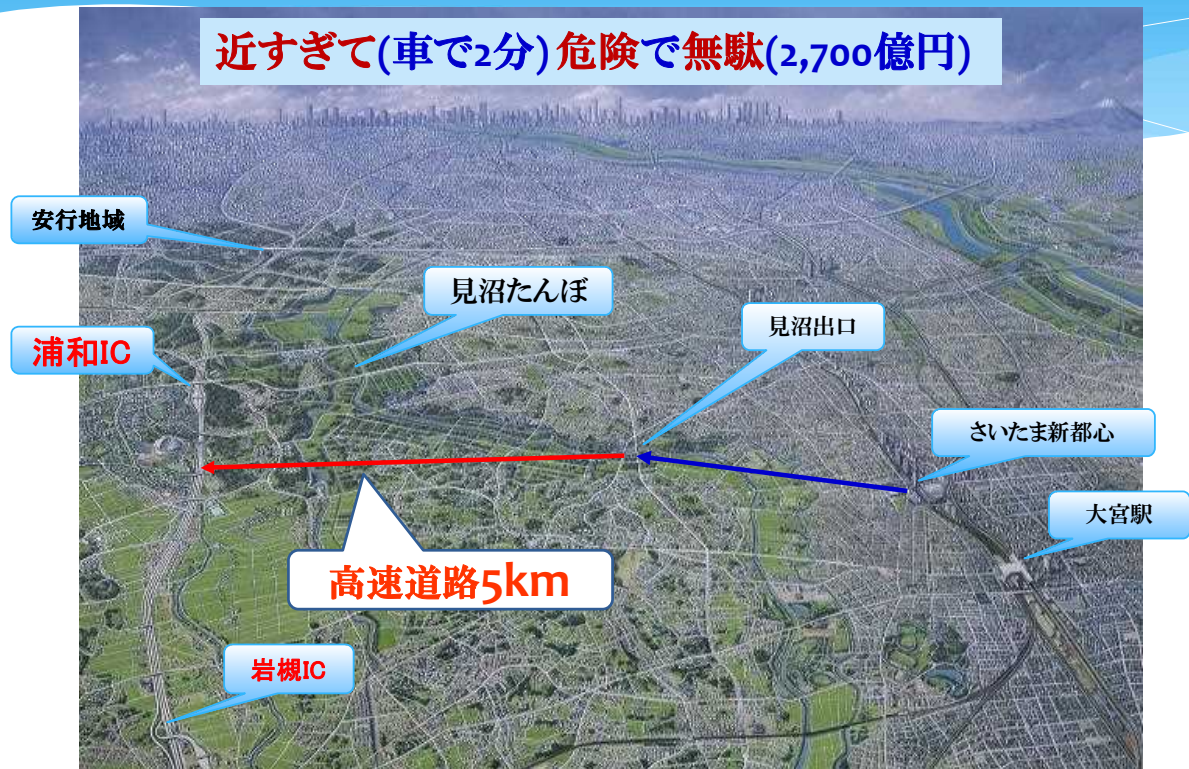


見沼田んぼで稲刈りを体験する小学生

市民・農家、教育機関、企業、行政などの連携した取り組みを評価

鈴木 樹

見沼たんぼの中心的地域に高速道路 浦和ICから1.8kmの位置に新規IC



2024/9/20

「開発促進志向」の衆議院議員 の思い付きから始まりました

「市街化調整区域の土地を売りたい・高く売
りたい・だから開発を願う」という地主達

首都高速埼玉新都心線東北道延 伸促進議員懇話会

会 長 衆議院議員

顧 問 さいたま市長

2024/9/20

その議員が
2021年10月に岸田内閣の「首相補佐官」に
あわてる大宮国道工事事務所

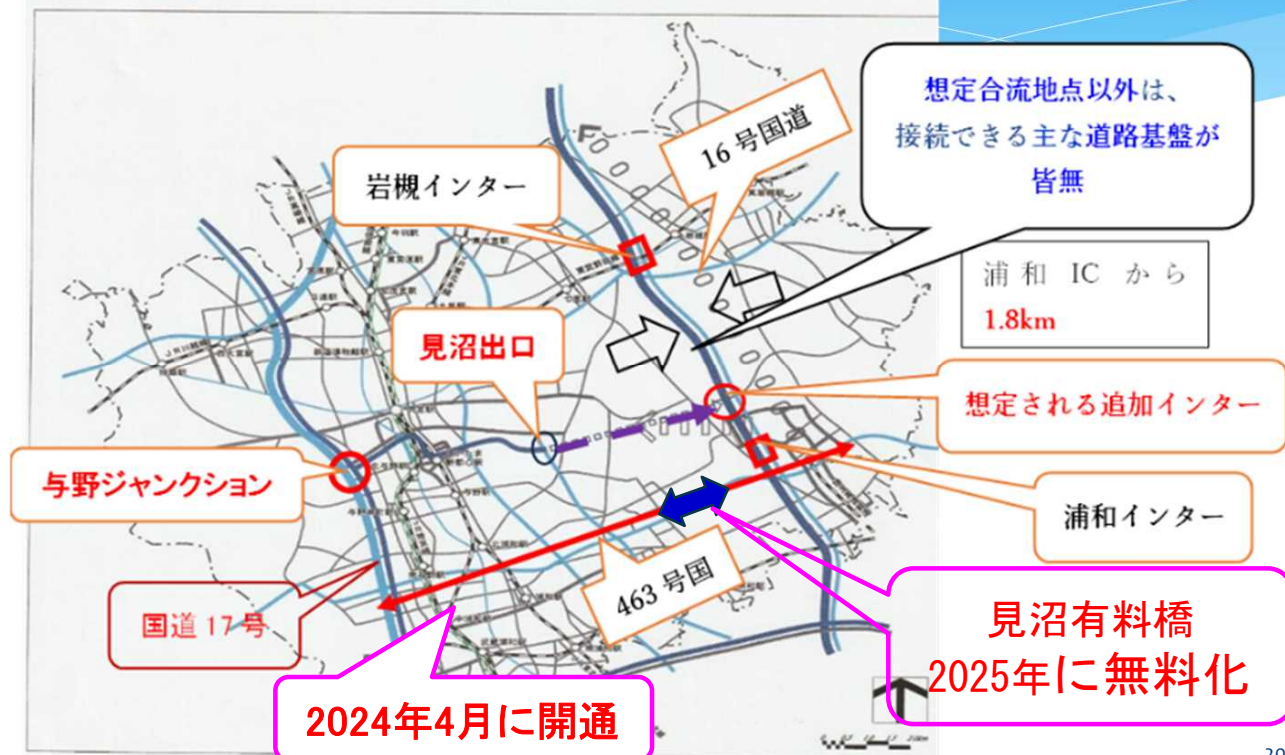
12月には「埼玉県東西軸道路検討会」として
関係機関をWEB方式で集めて立ち上げ
1年後には、「核都市広域幹線道路検討会」として、
道路の名称を「粉飾」
さいたま市役所での「地元検討会」として推進
地域住民に対して、あいまいな説明会や
欺瞞的な意見交換会などを開催

理念崩壊している
「核都市広域幹線道路」
1986年の首都圏整備基本計画で、千葉・さいたま・立川・横浜などの『業務核都市』を結ぶ
広域道路として構想された

- * 首都圏の
「一極化構造の進行」などによる
『業務核都市』の計画・理念の崩壊
- * などにより、まったく広域道路構想として
 - * 成り立っていない道路構想

道路網からも全く不要な「高速道路」

◆交通体系の方針図



2024/9/20

見沼たんぼ地域の中心的地域の
風致・環境・景観を大きく破壊する
高速道路計画に反対します

- * 3,000万人が集住する巨大都市圏の中で、
- * 40年余の長い市民運動と協議・検討を踏まえて、
- * 災害対応力の保持、自然環境・文化・景観資源の保全などから「大規模緑地地域」として基本方針を定め128億円の基金などで整備が進められてきている
- * 「見沼たんぼ地域」
- * 私たちは、その中心地域の風致・環境・景観を破壊する「高速道路計画に反対する会」を
- * 2023年9月に設立しました。

大規模田園緑地の中心地域を 分断する高速道路

② 緑の構造

本市には、西部の荒川周辺、中央部の見沼田圃とその周辺、東部の元荒川周辺といった規模の大きい緑地が存在します。



出典：「身近な緑現況調査及び分析業務委託調査報告書」（埼玉県）
図 45 さいたま市 緑被分布図

2024/9/20

生物多様性の重要保全地域 見沼たんぼ地域

- * 中心の「見沼自然公園」と「連続する斜面林」
- * 「さいたま生き物プラン」で
- * 『重要拠点の保全』として
- * 「見沼田圃等の拠点
となる地域の保全」
- * 「ふるさとエリア」の田園景観
- * 「片柳・上野田地区」の分断阻止



国や県・さいたま市・川口市の政策 見沼たんぼ地域の保全・活用・創造方針

- * 県・市「見沼田圃の保全・活用・創造の基本方針」1995年
- * 国・県・市「首都圏の保全すべき大規模緑地」2004年
- * **さいたま市見沼田圃基本計画の策定 2011年**



大都市圏の中の農業の振興

- * **200万人におよぶ周辺都市住民=消費者**
- * **地産地消=直売型の野菜・花卉・植木・造園などの多品種生産**
- * 「見沼地域の農業」が「人と環境にやさしい豊かな産業」として
- * 未来に向けて発展していけるように、応援・連携
- * 「見沼農業振興ビジョン・シンポジウム」と「見沼旬彩」の発行



買い上げた「公有農地」などの活用 市民団体・農家による体験活動の展開 「農」は豊かな学びの場

- * 活動面積の拡大と内容の充実・進化(生き物調査など)
- * 「援農・受託耕作」面積の拡大
- * 見沼の農業文化遺産・「ふなの」の復元活動



屋根づくり



ふなの 回りの「竹宵」



学校ファーム活動で稲わら確保

地域の多様な生き物の生息環境を守る活動 絶滅危惧種71種が生息 水辺環境の再生・斜面林の保全の必要性



大和田緑地



芝川の流れ



トラフズク



キンラン

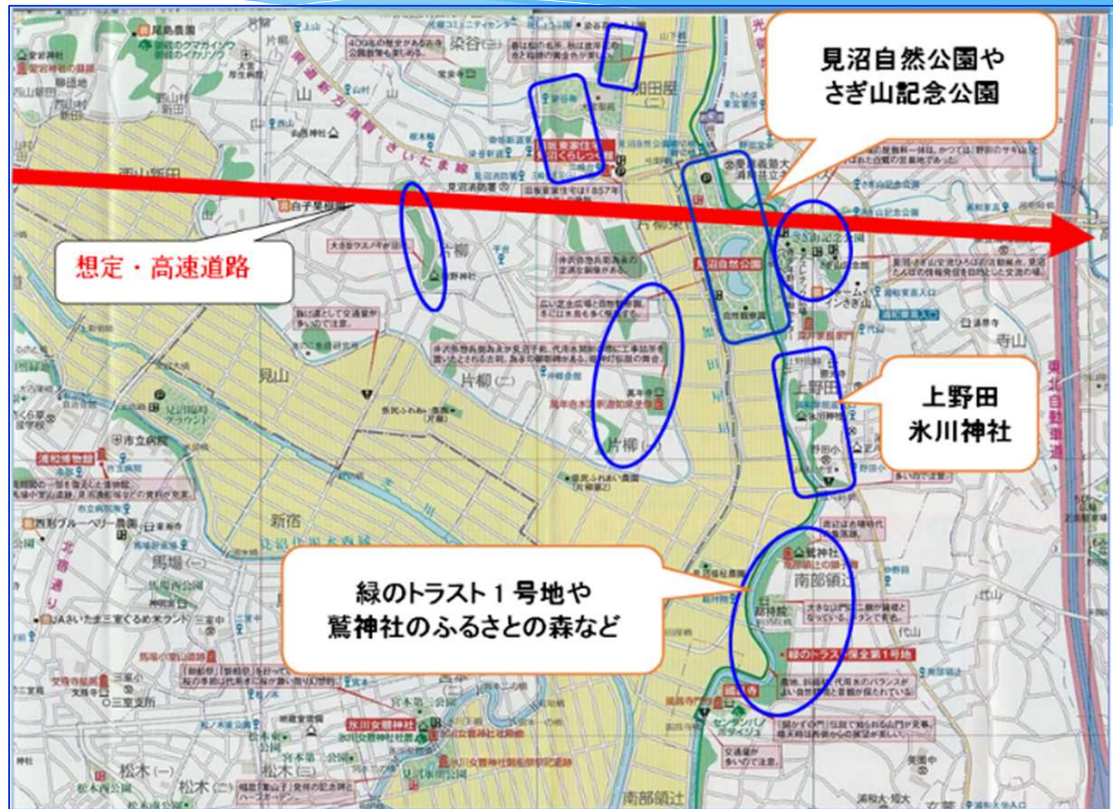


芝川第一調節池
の白鳥



ジャコウアゲハ 雄

高速道路の導入想定地区 上野田・南部領・片柳地区の緑地帯



2024/9/20

地域の多様な生き物の生息環境を守る 高速道路の導入が想定される 上野田地区から南部領辻地区の絶滅危惧種

絶滅危惧は埼玉県基準



キイロサナエ VU



オオヨシキリ(繁)NT2



クイナ(越)VU



ノハナショウブ VU



キンラン EN



バアソブ IB

未来の子ども達に遺す見沼たんぼ

100年後を目指す努力

* 昭和30年代の豊かで多様な自然環境の再生

- * 「さぎ山」の再生 (コウノトリも訪れる地域に)
- * 名所・「見沼のホタル」の再生
- * 芝川・加田屋川に清流が戻り、「アユ」や「ウナギ」が遡上

* 見沼の歴史環境の復元 (学習空間としての整備・活用)

- * 見沼代用水の歴史のすがたの復元 「懸け樋」・「河岸場」
- * 芝川の舟運の実験的な運行・遊覧
- * 縄文期の「見沼周辺集落」の復元

* 地域の暮らし・福祉・経済に役立つ見沼地域

- * 特色のある「田園観光」地域としての整備
- * 「観光農業地域」としての振興と整備
- * 「福祉農園」や「学校農園」、「家族体験農園」などとしての整備・活用